

曹洞宗ではお正月の元日から三日まで、朝にご祈祷を修行いたします。

一年の幸福を祈るこのご祈祷を三朝^{さんちようきがん}祈願といいます。祈祷太鼓が打たれ、それに合わせてお経を読み、多くの人々の願いと共に法要を営みます。

お正月以外でも、大本山永平寺や大本山總持寺をはじめ各地方の修行道場においてもご祈祷が行われています。大般若経六百巻を転^{てん}読^{どく}という作法で修行するのです。

一般的にご祈祷は「神仏に祈ること」と辞書には書かれています、

また別の説には、ご祈祷の行事は二つあり、一つは宗教者が多くの人のために行うもの、そしてもう一つは、自分が心を込めて神仏に幸福を祈ることといわれます。

年の初めの初詣に始まり、様々な場所で自分や家族、人の幸せを願い祈るものではないでしょうか。

また、祈りの内容も様々です。例えば、雨が降って欲しい、お天気になって欲しい。病気が治って欲しい、病気にならないで欲しい・・・等々、切実な祈りも多くあります。神仏に祈るだけでなく、ご先祖様のお墓参りやお仏壇の前に立つとき、「ご先祖様、毎日無事に過ごせるように、お見守りください」と祈ったことがある人は多いでしょう。

さらにその祈りを形にしたものが、お守りやお札です。家内安全・身体健全・商売繁盛・交通安全など様々なお守りがあります。木札や紙に書かれたお札などもそれにあたりますし、布の小さな袋に入ったお守りなどは、かばんの中に入れて持ち歩くことも出来ます。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

お守りも頂くこともあるかと思えます。そのお守りには渡す人のことを思い、その人の願いに合ったお守りを買求め、少しでも良い状態になることを祈る方から頂く、大変ありがたいものです。

お釈迦様は、自らを、暗闇を照らす灯とし、自らを、依り処とし、教えを依り処としなさい、とお示しになりました。また、他の多くの人に慈悲のこころを持ち、人びとを救う行いの大切さを説かれました。

自分自身の修行も大切ですが、それだけでなく自分を含めた多くの人の幸せを願い、仏さまに祈る心から、ご祈祷が行われるようになったのです。

昨年から新型コロナウイルスの影響が続いていますが、世界中で、早くなんとか以前のよ
うな生活を取り戻したい、と祈っていることでしょう。祈りだけでは病気を無くすことは出来
ませんが、一人一人が最善を尽くし新型コロナウイルスの終息が早くなることを仏さまに祈るばか
りです。

— 終 —